



信越郵政支部長の城戸 友愛です。

1年半程前に「支部書記長リレーエッセイ」へ寄稿しましたが、今回は支部長として書かせていただくことに恐縮しています…

これを書いているのは2月下旬で、そろそろ内命日も近づいてきて忙しんでいる方も多いかとは思いますが、私もその一人で送別会はどこでやるかとりわたりしております。

しかし皆さまご存じのとおりこのコロナ禍で大変なお酒をお店で飲むことが困難になっており、様々なコミュニケーションが不足しがちになってはいますが、コロナ禍において唯一の救いは自宅に帰ると生後7か月の長男、第三子が笑顔、希に泣き顔で出迎えてくれることです。

帰宅時間が遅くなることもありますが、今までに比べれば家族とのコミュニケーションは増えたように思います。

コロナ禍の「未来」を見据え、如何に仕事・組合活動を変革していくかの岐路に立っていますが、正解を仲間と模索しつつ取り組んでいきたいと思っています。